マーケットデイリー

SMAM

（No.2,257）〈マーケットレポートNo.4,386〉

情報提供資料

2015年8月31日

今日のトピック　最近の指標から見る日本経済（2015年8月）

7-9月期はプラス成長に復帰する見込み

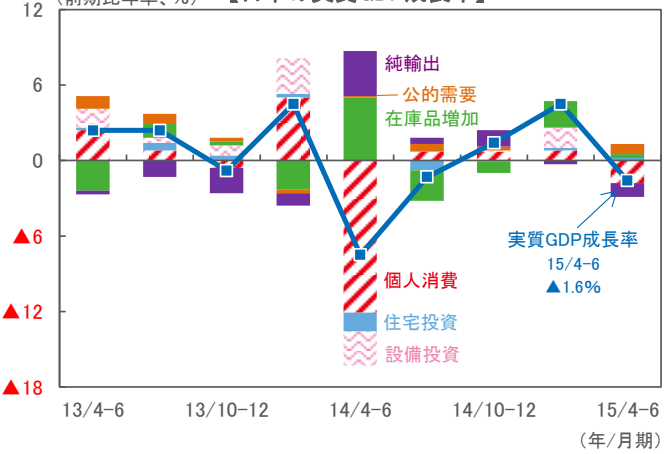
ポイント1　4-6月期はマイナス成長

生産は一進一退

■4-6月期の実質GDP成長率は、前期比年率▲1.6%と、消費税増税の影響が残る昨年7-9月期以来のマイナス成長となりました。賃金上昇が実感される前に食料品などの値上げが相次いだことで個人消費が低迷したことや、中国向けを中心に輸出が鈍化したことが主な要因です。

■7月の鉱工業生産指数は、前月比▲0.6%と2カ月ぶりに低下しました。特に電子部品・デバイス工業、輸送用機械工業などの低下が大きく、輸出の低迷が影響しました。製造工業生産予測調査では、8月は同＋2.8%、9月は同▲1.7%となり、基調判断は、「総じてみれば、生産は一進一退で推移している」が据え置かれました。

【日本の実質GDP成長率】



（注）データは2013年4-6月期～2015年4-6月期。実質GDP成長率は前期比年率、その他の項目は同寄与度。公的需要は、政府最終消費支出、公的固定資本形成、公的在庫品増加の合計。
（出所）内閣府のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2　消費は回復基調

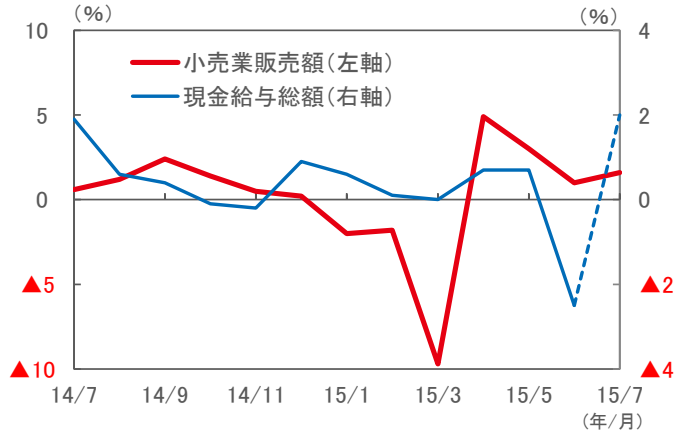
良好な雇用環境は続く

■7月の小売業販売額は、前年同月比＋1.6%と天候に恵まれたこともあり、前月から伸びが加速しました。業種別では、原油価格下落の影響を受けて燃料小売業が減少した以外、すべての業種が増加しました。

■6月の現金給与総額は、前年同月比▲2.5%と大きくマイナスとなりましたが、これは賞与の支給時期のずれが大きく影響したためと見られます。7月の市場予想（ブルームバーグ集計）は同＋2.0%となっており、賃金の緩やかな上昇傾向が続く見込みです。

■7月の失業率は3.3%、有効求人倍率は1.21倍と、良好な雇用環境が持続しています。

【小売業販売額と現金給与総額の前年同月比】



（注）データは2014年7月～2015年7月。現金給与総額の2015年7月はBloomberg L.P.予想。
（出所）Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開　輸出、消費の回復により7-9月期はプラス成長へ

■中国の景気は景気対策の余地から大きな下振れは回避されそうです。一方、米国の景気は順調な拡大が見込まれ、日本の輸出は先進国向けを中心に緩やかに回復しそうです。

■また、消費は賃金上昇を背景に堅調さが維持されると見られ、輸出、消費の回復を背景に7-9月期以降、国内経済はプラス成長に復帰することが期待されます。

ここもチェック！
2015年08月28日　「個人消費」の回復シナリオは不変（日本）
2015年08月20日　「レジャー白書」、余暇市場は堅調（日本）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。